

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2015年4月～2016年3月

1. 学校概要

学校名 佐渡市立相川小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒952-1582  
新潟県佐渡市相川下戸村1-1

E-mail : aikawa-es@sado.ed.jp

Website : aikawa-es@sado.ed.jp

児童生徒数：男子 78 名 女子 57 名 合計 135 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について簡単に記載願います

ア) 相川クリーン作戦（全校）

縦割り班を活用し、異年齢集団による、地域のゴミ拾い活動を行った。6月は、金山周辺及び相川町内を、10月は、海岸方面を行った。（夏休みは各家庭で家の近くを行った。）6月と10月の時には、高学年中心の縦割り班で、協力し

てゴミを拾い、学校に帰ってから分別して処分した。その後、感想を発表し合い、世界遺産登録候補地の環境美化のため、頑張ろうという気持ちを高めた。

イ) ゴミ0プロジェクト(全校)

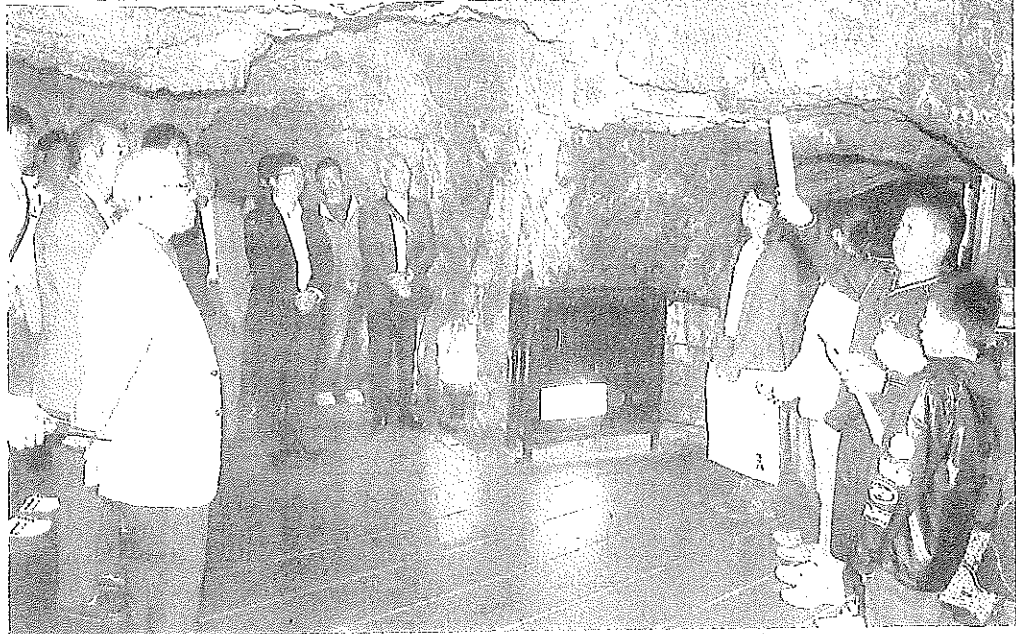
毎週火曜日、登校中に通学路のゴミ拾いを行った。登校班で歩きながら、見つけたゴミを学校に持ってきた。持ってきたゴミは、環境委員に渡し、環境委員がゴミの量を量ったり、分別をして始末したりした。また、昼の放送で、頑張っている様子や活躍した子どもの名前を紹介した。

ウ) 「相川学」(総合的な学習の時間3年～6年)

3年は「相川3大祭りマスター」の単元で、相川の祭りのすばらしさを発見していた。囃子や踊りを多くの人に披露した。4年は「やわらぎを伝えよう」の単元で、相川に伝わる神事「やわらぎ」を学んだ。5年は「唄い、奏で、踊ろう!佐渡おけさ」の単元で、歌と楽器演奏と踊りを習い、伝統文化を引き継ぎたいとの気持ちを高め、多くの方々の前で発表した。6年は「ぼくらが伝える黄金伝説」の単元で、佐渡金山について学習し、佐渡金山で、金山ガイドとして一般のお客さんの前で、自分が学んだことを説明した。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )



### 相川小6年生

# 元気に分かりやすく

## 学習成果 金山をガイド

佐渡市の相川小学校6年生が、観光施設「史跡佐渡金山」(佐渡市下相川)で行っているボランティアガイドが好評だ。児童は佐渡金山遺跡について学び、現地で成果を披露。観光客からは一生懸命に説明する児童に対し、感謝の言葉が贈られている。

相川小では、地元の佐渡金山の歴史について総合学習で学んでいる。世界遺産登録を目指す金山の魅力を伝えることなどを目的に、6年生は毎年ガイドを実施している。

佐渡金山の施設内でガイドをする相川小の6年生12日、佐渡市相川地区

6年生23人は2日、観光客に説明するため、グループに分かれて江戸時代の坑道「宗太夫坑コース」へ。排水、採掘、製錬などの場所で見学しながら説明した。

鉱石を掘った「金穿大工」について「(岩盤が固く)鉱石を掘るたがねは、2日に1回交換した」「給料は高額だったが、大変な仕事だった」などと、パネルや手作りの道具を使いながら

元氣よく解説した。金山の繁栄を「やわらぎ」についた宇田航大君(11)らも多かった。大きな声で分かりやすく説明するよう心掛と語った。

観光客は児童の耳を傾け、説明がと「ありがとう」だったよ」などと言った。愛知県稲沢市山中秀夫さん(78)は「佐渡に来たが、金山を学べた。産を目指している人が、若い人たちに話してほしい」と喜んで、児童は8日、再び山でガイドを行う。

佐渡

3年生がよいのまいで  
相川音頭を踊ります。

佐渡支局 〒952-0006 佐渡市春日1143-9  
0259(27)2495  
(27)4811  
FAX(27)2090



# 相川音頭元気に踊るぞ

## 宵乃舞 地元の児童が初挑戦

6月6、7の両日に佐渡市相川地区で行われる「宵乃舞」に、相川小学校の3年生26人が初めて参加し、地元の民謡「相川音頭」を歌って踊る。元気がいいの姿を見せようと、児童は張り切って練習に励んでいる。

宵乃舞は、鉾山町の風情が残る京町通りを舞台に相川音頭を踊り流すイベントで、今年で14回目。昨年は2日間、約6千人が訪れた。

相川小では観光客に伝統の歌と踊りの良さを知ってもらうようと、地元グループの「七浦民謡研究会」と「立浪会」から指導を受け、相川音頭の演目の一つ「源平軍談」の練習に大型連休明けから取り組んできた。歌い手の児童たちは、勇気を演出しようと「どっ

元気よく踊りの練習をする相川小の児童ら11日、佐渡市相川下戸村

と笑って」で始まる歌い出しに力を込めて練習。踊り手の児童たちは、手の動きと足の運び方を何度も確認している。

本番が近づき、歌と踊りを合わせた練習に入っている。指導陣からは「上手になってきた」「いい動きだよ」と声が掛かるようになってきた。踊り手を務める中川瑛寿君(8)は「相川に伝わる踊りの良さを見てもらいたい」と意気込み、浜本稔さん(9)も「失敗を恐れず恥ずかしくがらずに踊りたい」と話す。

児童は6日のみの参加で、午後6時ごろから佐渡奉行所前で歌と踊りを披露する。